

2012年4月25日

北九州市長 北橋健治様

門司の環境を考える会 会長 森下宏人
北九州市門司区吉志 5-12-14
電話 093-481-6778

「震災がれき受け入れ」に対する要望書

3月12日に北九州市議会が採択した「東日本大震災で発生したがれきの受け入れに関する決議」を受け、北橋健治北九州市長は震災ガレキ受け入れの準備を進めています。

レベル7という福島原発の重大事故は、大気、海洋、土壤を広範囲に汚染し、震災がれきも汚染しました。放射性廃棄物は、「封じ込め拡散させないことが原則」であり、震災がれきを広域処理すれば、日本全体に放射性物質を拡散することになります。

北九州市は想定受入処理能力を3万9500tとしていますが、仮に、この3万9500tの震災がれきを北九州市で処分するとした場合、一般廃棄物と同じ扱いとなるクリアランスレベルの1kg当たり100ベクレルで計算をしても、総量で39億5000万ベクレルの放射性セシウムが、市内に運び込まれることになります。私たちは北九州市で震災がれきの処理をすることに、大きな不安を感じています。

震災がれきを焼却した場合、仮に、環境省が「災害廃棄物の広域処理」のパンフレットで示すように、バグフィルターで99.92~99.99%放射性物質が除去されたとしても、総量で316万ベクレル~39万5000ベクレルの放射性物質が、焼却工場の煙突から市内に吐き出されることになります。

市内には、日明工場(平成3年)、皇后崎工場(平成10年)、新門司工場(平成19年)の3工場がありますが、昨年4月~12月の排ガス中の窒素酸化物の測定結果を見ても、日明96.3ppm、皇后崎55.5ppm、新門司11.2ppmと、バグフィルターの性能はバラバラで、99.92~99.99%の放射性物質が除去できるという、政府の言葉は通用しません。また、大分市の環境団体が、バグフィルター生産企業7社に調査したところ、全社がバグフィルターで放射性物質が除去できないと答えています。

2007年9月、日明工場では3号炉のボイラーワークの蒸気漏れが原因で、排水から310倍を超える濃度のダイオキシン類が検出されたことがありました。その時環境局は、「(この事故は)想定外の事」「老朽化が進んでくれば予期せぬ事故が発生しやすくなる」と、当会の質問に答えていました。私たちは塩水をかぶったガレキを燃やすことによる焼却炉の故障や、ダイオキシン類の発生も危惧しています。

さらに、震災がれきと一緒に市内に持ち込まれるのは、放射性物質だけではありません。アスベスト・PCB・ヒ素・六価クロムなどの有害物質も、同時に運び込まれますが、この対策はどうするのでしょうか。また、震災がれきの一番近くで働く環境局職員の健康はどのように守られるのでしょうか。

被災地の一刻も早い復興は誰もが強く願うところですが、私たちが北九州市長に一番に考えていただきたいのは、これから生まれてくる子どもも含めた北九州市民を、低線量被曝や晚発性障害、その他の危険物質からどう守るかです。震災がれきの受け入れ検討については、その立場に立った慎重な対応をお願いいたします。

《要望項目》

- 希望する住民や団体などに対して説明会を開き、そこで出された意見と市の見解を、市のホームページに掲載して下さい。
- 「がれき受け入れ」検討委員会に、住民の声を反映できる有識者を複数名加えて下さい。